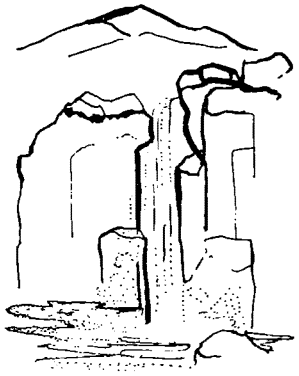
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	いつまでも新人でありたい
Author(s)	岸田, 勲
Citation	大阪公衆衛生. 1964, 14, p. 14-14
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84602
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka



いつまでも新人でありたい

岸　田　　勲

保健所の監視員らしい男が，飲食業者に対して半強制的に生命保険の勧誘を行っている。事実に反するならばサギの疑いありとの警察署からの通報。これは，昨年7月私が保健所在勤中のことである。われわれナカマ同志でこそ，保健所のことをヘルスセンター，略称HCなどと気どった呼び方でも通じるが，一部の人々が社会保険事務所と間違って来るのはまだよい方で，保健所長が保険会社の支所長と間違えられたり，文書のあて名が保険所となっているのも珍しいことではなく，PRの不足をなげいていた矢先，さても迷惑な事態発生と腹立たしく思ったことか。

結局前記のことは，保険勧誘員の仕事熱心？のあまりのゴカイであることが判明したが，私が大阪公衆衛生協会の存在（名前だけ）を知ったのはこの時であった。忙しい最中のケイサツ沙汰，坊主にくけりゃ何とかで，私の認識不足はさておき，正直なところ協会が最初私に与えた印象は，決して好いものではなかった。

さて，昨年8月思いもかけず全くのズブの素人が，衛生教育係長を拝命，爾来いささか暗中模索ながら忙しい毎日を送っているが，その中でも協会員としての仕事が，相当のウエイトを占めるに至ったのも全く皮肉，しかし，おかげでよく判りました。この協会が私にとって非常に気持のよい場所であることが……。その理由はいろいろ挙げられるが，今更ナカマ同士宣伝しても始まらないし，そのうち何とか学会ではないが，この拙稿を読まれなかった不運な人達（特に保健所の事務職員）の折伏にまわるつもりでいる。

協会が技術屋さんの集りのような感じで，事務系の者はとりつきにくいように思う。これは本誌No. 12声の欄にあったが，このことはそのまま保健所にもあてはまるのではないか。はなやかな？技術系職員の仕事に対して，事務職員は全く縁の下の力もち，私自身2年足らず事務屋として保健所に勤務したが，卒直にいって保健所の事務職員に対する一般の評価はきわめて低い。事務職員が保健所へ転勤となると，これが昇格人事でもないかぎり，きまって同情されることでも証明し得る。保健所の仕事が事務職員にとって，全然魅力がないことが最大の原因といえるが，与えられた仕事のみにとらわれずに，事務職員自身が新しい魅力ある仕事を開拓するべきではないか。そしてこれには，技術職員の理解と協力が必要なことはいうまでもない。

一般によく判っているようで，理解されてないのが公衆衛生の問題だと思う。技術屋であれ事務屋であれ公衆衛生従事者がひとりよがりの自分達の守備範囲だけの考え方，行動が公衆衛生の領域をますます狭くし，とり残されているのではないだろうか。そしてただいたづらに同志的なあつまりでキエンを挙げたり，また慰さめ合っているだけでなく，関心のない人達に理解させるよう，積極的に働きかけるのがこの協会の重要な仕事ではないだろうか。

新米の暴言多謝，私もいつかはベテランになるでしょうが，またいつまでも新人でありたいと思っている。

岸田勲氏—昭和27年8月　大阪府に就職，府立産業能率研究所，民生部社会課，労働部職業訓練課，藤井寺保健所主査を経て昭和38年8月医務課衛生教育係長